

学校教育目標

【研究構想図】（令和6年度）

研究主題

自ら考え、課題解決する力を伸ばす指導法の工夫

～主体的・対話的で深い学びをめざして～

【目指す児童像】

自分の考えをもち、他者と対話的に話し合いながら、自ら課題解決に向けて学習に取り組む児童

| | | |
|-----|---------------------|--------------------------------|
| ↑ | 高学年 | 自分で課題を見付け、自分と結びつけて考え、学習に取り組む児童 |
| | 中学年 | 課題を自分と結びつけて考え、学習に取り組む児童 |
| 低学年 | 自分の考えをもって、学習に取り組む児童 | |

【研究仮説】

課題解決的な思考の流れを組む単元計画を通して、児童が主体的に課題と向き合いながら自分の考えをもち、他者と対話的に話し合うことのできる学習環境を設定すれば、自ら考え課題解決をしていく児童が育つだろう。

研究主題に迫るための手だて

【問題解決・課題解決に至る単元作り】

児童が解決の必要感をもてる課題設定

- 自分ごととして捉えられる課題設定
（当事者意識、明確な相手意識、日常場面）
- 問題意識を生み出す題材、教材の活用

単元のゴールの明確化

- 問題解決に迫る螺旋型の単元計画
 - ・ 児童と単元のゴールを共有する方法
 - ・ 児童とともに練り上げて単元のゴールを考える方法
 - ・ 児童自らがゴールを見出す方法

【課題解決をする力を伸ばす指導法の工夫】

対話的に考えを伝え合う力を育む指導

- 話し合いの技能を身に付ける系統的指導
- ICTを活用した情報共有
- 学年に応じて話し合いのヒントとなる話型を掲示

自分の考えをまとめる手だて

- 各種思考ツールの活用
- ふり返りの活用

研究主題に迫るための学校全体の手立て（研究組織づくり）

- 「前野小学習スタンダード」を共有し、全学年・全学級で積み上げる指導
→ 学習の流れ、発言のルール、話し方・聞き方などの授業規律の共有
- 事前・事後実践を通じた、分科会・協議会で「深める」指導法
- カフェスタイル形式で、ファシリテーターの役割を実感しながら全教員が主体的に参画する研究協議会